〔千葉医学　92：57 ～ 59，2016〕

〔病院紹介〕　独立行政法人国立病院機構千葉医療センター

院 長　増 田 政 久

はじめに

千葉医療センターの所属する国立病院機構は，全国に143の病院を運営する独立行政法人です。国立病院機構は，医療の提供，臨床研究の推進，医療従事者の養成という３つの業務を行っており，急性期治療から慢性期治療まで約５万床の病床と，約６万人の職員からなる，我が国有数の病院ネットワークを有しています。国立病院機構は，この医療資源を活かして，地域の医療に貢献し，住民の皆様の支えになることとまた経営面においては自己の診療収入により収支相償を目指し，平成16年４月に国立病院・療養所がひとつの法人としてスタートいたしました。千葉県内では現在，千葉医療センター（455床: 千葉市中央区），千葉東病院（427床: 千葉市中央区）下総精神医療センター（469床: 千葉市緑区），下志津病院（440床: 四街道市鹿渡）の４つの病院が運営されています。本稿では，千葉市中央区椿森にあります「千葉医療センター」をご紹介させていただきます。

理念・基本方針・沿革

千葉医療センターの理念は，信頼される医療を築く（Building Trust），私たちは，地域の方々に親しまれ，信頼される医療をめざします。その基本方針は，患者さんをはじめセンターに関わるすべての方々の人権を尊重し，相互信頼で成り立つ安全・安心な医療を目指します。地域の医療機関に信頼されるエビデンス（evidence）に基づいた幅広くかつ専門性の高い急性期医療の構築を目指します。良質かつ最新の医療を提供するために教育・研究・研修・情報発信を推進し自己研鑽に努めます。以上の方針を継続的に実現する病院運営に努めることとしております。

千葉医療センターは，昭和20年の旧千葉陸軍病院から厚生省に移管後，国立千葉病院としてこの椿森の地で，総合病院として医療を提供してきました。平成13年には，地域医療研修センターが新設され地域医療の充実を図り，救急医療体制も強化され内容の高い救急医療となっています。平成15年には病院の理念を具現化し，職員の心を一つにするため，シンボルマークが造られ現在も使用しております。このマークは，「信頼される医療を築く（Building Trust）」という理念の下，人が大いなる信頼，安心，暖かさにゆりかごのように包まれる世界をイメージしたものであります。平成16年４月には独立行政法人化により独立行政法人国立病院機構千葉医療センターに名称変更し，平成20年２月地域がん診療連携拠点病院の指定，同年４月臨床研究部の設置，同年６月地域医療支援病院の名称使用承認を受け，平成22年６月には全面建替の新病院（免震構造８階建の病棟，耐震構造３階建の外来管理棟等）がオープンしました。さらに災害に強い病院を目指してガスコージェネレーション発電設備と非常用発電機の重油タンクを増設し，平成27年４月に新たに地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関の指定を受け，さらに新指針による地域がん診療連携拠点病院の４年間の更新を受けました。

概　　要（写真１）

診 療 科　内科，糖尿病代謝内科，精神科，神経内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，小児科，消化器外科，外科，乳腺外科，整形外科，形成外科，呼吸器外科，脳神経外科，心臓血管外科，皮膚科，泌尿器科，産婦人科，眼科，頭頸部外科，耳鼻咽喉科，リハビリテーション科，放射線科，歯科，歯科口腔外科，麻酔科，病理診断科（28診療科）

独立行政法人
国立病院機構 千葉医療センター
National Hospital Organization Chiba Medical Center

（千葉市中央区椿森4-1-2　TEL043-251-5311）

写真１

特　　色　地域がん診療連携拠点病院，地域医療支援病院，地域災害拠点病院，エイズ拠点病院，臨床研究部，臨床研修指定病院

病 床 数　455床（一般病床: 410床，精神病床45床）

構造規模　病棟中央診療棟: 鉄筋コンクリート造（免震構造）・一部鉄骨造８階建，外来管理棟: 鉄骨造（耐震構造）３階建，エネルギー棟: 鉄骨造（耐震構造）１階建

敷地面積　50,392㎡

建物面積　38,858㎡（うち病棟・中央診療棟８階建: 24,112㎡，外来・管理棟３階建: 7,470㎡）

診療体制

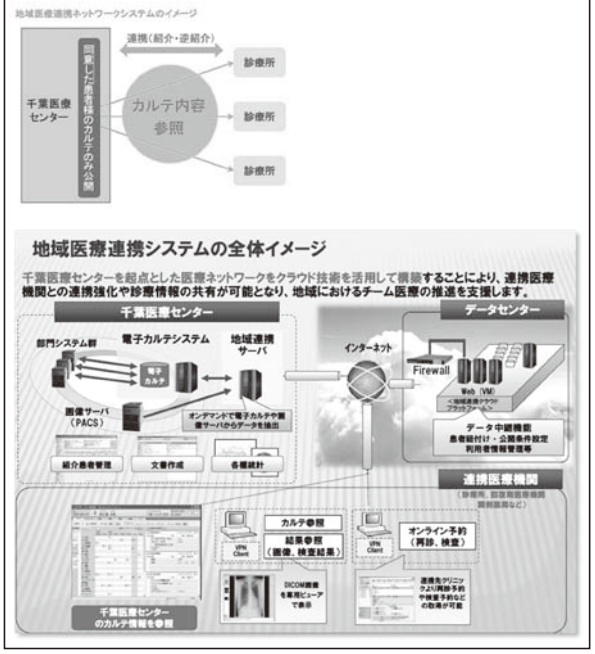
統括診療部の下に外来管理部，病棟管理部，手術部，放射線診療部，医療技術部，救急部の６部門を置き，他に医療情報管理部，がん診療部と共に医療を行っております。地域医療連携においては，地域医療連携ネットワークを構築し希望する登録医に同意した患者の電子カルテの内容を参照できるサービスを提供しています。（表１）

救急医療体制

救急告示病院，病院群輪番制病院，休日二次当番制病院として，院内の夜間体制は，内科，外科及びICUの医師当直，薬剤，放射線，検査及び看護の当直体制，麻酔科医師等のオンコール体制を整備し救急医療に対応しており，年間約6,000件の急患対応をしています。また，救急救命士の再教育研修施設，気管挿管実習施設として，救急救命士の研修及び千葉市消防局司令センター医師常駐体制への医師派遣の協力を行っています。

表１　地域医療連携ネットワーク

地域の医療機関と当院とを結ぶネットワークを構築し，検査結果やCT，MRI等の画像といった患者様の診療情報を共有するシステムです。



看護体制

一般病棟（８看護単位），精神病棟（１看護単位）及び救急病棟（ICU・CCU含む２看護単位）の11看護単位（表２）と手術，中央材料室，外来，退院支援，地域連携の体制となっており，一般病棟は７対１入院基本料の施設基準を取得しております。

勤務体制は，二交替制を主に三交替制とミックスで実施し，看護方式は固定チームナーシング＋受け持ち看護師制を行っています。認定看護師を目指す看護師も多く，感染管理，がん化学療法，手術看護，集中ケア，皮膚・排泄ケア，緩和ケア，摂食・嚥下障害の分野の認定看護師が活躍しております。

表２　病棟構成・病床数

病棟名	病床数	うち有料個室	診　療　科	病棟名	病床数	うち有料個室	診　療　科
8 階	20	B: 2 室 C: 18室	特別個室				
7 階西	52	C: 6 室 D: 6 室	整形外科，形成外科，神経内科，リハビリテーション科	7 階東	45	D: 4 室	精神科
6 階西	52	A: 1 室 C: 6 室 D: 5 室	消化器内科	6 階東	52	A: 1 室 C: 6 室 D: 5 室	消化器外科
5 階西	52	A: 1 室 C: 6 室 D: 5 室	脳神経外科，眼科，糖尿病代謝内科，放射線科，麻酔科	5 階東	52	A: 1 室 C: 6 室 D: 5 室	心臓血管外科，循環器内科，呼吸器内科，呼吸器外科
4 階西	52	B: 1 室 C: 6 室 D: 5 室	耳鼻咽喉科，泌尿器科，皮膚科，歯科口腔外科	4 階東	48	B: 1 室 C: 2 室 D: 12室	小児科，産婦人科，乳腺外科
ICU	8		ICU	救急	22		
				合計	455	A: 4 室（17,280円） B: 4 室（11,880円） C: 56室（10,368円） D: 47室（ 6,264円）	

教育研修・臨床研究体制

教育研修部では，レジデント，臨床研修医の受け入れ等医師卒後教育に力を入れています。千葉大学との関連も深く，基幹型，千葉大学の協力型の初期研修プログラムと平成27年度からは千葉県国立病院機構４病院連合研修プログラムを新たに加え実施しております。専門医制度導入についても千葉大学との連携を重視しています。また，薬剤師，管理栄養士，理学療法士，臨床工学技士などの学生実習の受入，附属千葉看護学校と近隣４校の看護学生の実習受入も行っています。

臨床研究部については，各臓器疾患を考える上で，血流，血管障害の観点からアプローチをすすめ，治療・予防に広く貢献するエビデンスを見いだすことを目的に５室（臨床研究企画室，診断治療研究室，政策医療研究室，医療教育研究室，治験管理室）の研究室を設け臨床研究を行っています。

千葉医療センター附属千葉看護学校（写真２）

昭和25年に開設し，平成17年には学校大型化による校舎の新築整備が行われ，１学年80名の総定員240名（３年課程）の学生が看護師を目指し学んでおります。今までに2,405名の卒業生（平成28年３月31日現在）を輩出し，その多くの方々が千葉県内の医療機関等に就職し活躍しています。

写真２　千葉医療センター附属千葉看護学校

おわりに

はじめにご紹介したとおり千葉県内の国立病院機構４病院は，いずれの病院も約15km圏内の至近距離内に位置しております。こうした国立病院機構の医療資源が，この先予定されている医療・介護の提供体制の将来像の中で地域の多様なニーズに対応できるよう国立病院機構４病院は共に努力していくことが必要と考えております。